

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 特定感染症検査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111 (内 2547)

E-mail: c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,606 千円 (前年度予算額： 1,606 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 1,606 | 803 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 803 |
| 要求額 | 1,606 | 803 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 803 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内では、B型肝炎ウイルス陽性者が2万人、C型肝炎ウイルスキャリアが3万人いると推定されており、ウイルス陽性者・キャリアの多くは、肝炎、肝硬変、肝がんへと移行するため、無症候性キャリアの早期発見、早期治療への結びつけが必要となっている。

また、エイズ患者・HIV感染者数は依然として増加し、当県でも感染者等は年々増加し、令和2年末までにHIV感染者199名、エイズ患者152名が報告されている。

さらに、梅毒患者が全国的に増加しており、HIV検査と同時に検査を行うことで早期発見、早期治療へ結びつける。

これらの感染症のまん延を防止するためには、感染者を早期に発見し、適切な医療に結び付けることが重要である。

(2) 事業内容

患者・感染者を早期に発見するため、これらの特定感染症に対する検査・相談を保健所において実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

感染症予防事業費等国庫負担（補助）金交付要綱

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|----------------------------|
| 報償費 | 52 | 特例検査に係る謝金 |
| 旅費 | 44 | 業務旅費等 |
| 消耗品費 | 1,034 | 検査消耗品等 |
| 委託料 | 441 | HIV 追加検査、梅毒検査及び肝炎ウイルス検査委託料 |
| 使用料 | 35 | 検査会場使用料 |
| 合計 | 1,606 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

HIV、梅毒及びウイルス性肝炎感染者の早期発見及びまん延防止のため、今後も引き続き、事業を行う必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

- 新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 B型、C型肝炎、HIV及び梅毒に対する検査・相談を保健所において実施することで、感染者を早期に発見し、適切な医療につなげます。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R2年度 実績 | R3年度 目標 | R4年度 目標 | 終期目標 (R) | 達成率 |
|--------------------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|-----|
| | | | | | | % |
| ① 肝炎ウイルス検査件数 | | 89件 | 270件 | | | % |
| ② HIV抗体検査件数 | | 225件 | 550件 | | | % |
| ③ TP抗体検査件数 (H29年6月開始) | | 223件 | 550件 | | | % |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|--|
| 令和2年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ○保健所における検査体制の拡充 平成23年度から引き続き、5保健所においてHBs抗原検査、HCV抗体検査及びHIV抗体検査の無料検査を実施。平成29年度6月から梅毒検査も受検できるよう検査体制を整えた。また、世界エイズデーに合わせ、各保健所が圏域の大学等と協力して啓発を行った。 ○前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果 令和3年8月末時点で、HBs抗原検査を50件、HCV抗体検査を47件、HIV抗体検査を92件、梅毒検査を86件実施した。また、HIV抗体検査92件のうち、平日夜間検査は5件であった。 |
| 令和3年度 | <p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p> |
| 令和4年度 | <p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p> |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|--|
| ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない | |
| (評価) 3 | HIV、梅毒感染症、ウイルス性肝炎とも、本人が感染に気付かないうちに重症化するとともに、他人にも感染させてしまうおそれがある疾患である。 従って、早期発見、早期治療が特に重要な感染症であり、保健所における無料検査の実施は必要性が高い。 |
| ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) 2 | 毎年一定数が保健所で検査を受けており、陽性者も発見できていることから、感染の早期発見に寄与しているといえる。 |
| ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 2 | 肝炎検査については、医療機関への委託（別事業）と併せて実施することで、幅広く受検機会を提供している。 HIV、梅毒検査キットについては、保健所間での在庫調整を行う等、予算の効率的執行を図っている。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 より多くの県民に積極的に検査を受けてもらうためには、早期発見の重要性についての普及啓発が不可欠。 |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|--|
| ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 岐阜県の HIV 感染者は平成 23 年に過去最高となるなど、近年高いレベルで推移しており、積極的な対策を継続していく必要がある。引き続き、保健所における検査体制の拡充を図っていくとともに、積極的な受検を促すための啓発活動を実施していく。 |
|--|